

「聖霊に満たされて」

10年前、タイ語を学んでいた時、10歳以上若いクラスメートたちがどんどん新しい単語を覚えていく様に驚愕しました。翻って自分は……。「年齢を重ねてから新しいことを学ぶことは大変だ」とは聞いていましたが、これほどまでとは思っていませんでした。

「一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しました。」(使徒言行録2:4)

聖霊が注がれると「霊が語らせるままに、他国の言葉で話」(使徒言行録2:4、聖書協会共同訳)することができるようなら、なんと良いことでしょう。しかもそれは、聞く一人ひとりに「私たちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは」(使徒言行録2:11、聖書協会共同訳)と言わせるような内容だったといえます。母語である日本語でさえ、「神の偉大な業を語」るのに労している身からすれば、なんとうらやましいことでしょう。

洗礼を受け、按手を受けて霊の注ぎを受け、日々、聖書の言葉と格闘している私にもこの「他国の言葉で話」す力を与えてほしいと願ったことは一度や二度ではありません。特に、タイ・スタディツアーで出かけた村で、日本語をタイ語に、タイ語をさらにカレン語に通訳してもらってお話をしている時、その願いは大きくなりました。

しかし、その熱意は日々の生活に追われているうちに雲散霧消してしまい、また次の機会に「あ、やっぱり私に力を」と何度繰り返してきたことでしょうか。今こそ、改めて神の前に決意を新たにする時なのではないかとも思えます。

「その後／わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。あなたたちの息子や娘は預言し／老人は夢を見、若者は幻を見る」(ヨエル書3:1)。霊に満たされるとは、前を向く力を与えられるということです。終わりがあることがわかっている私たちの人生ですが、その終わりまで神の支えと守りの内に新しい一歩を踏み出せるということです。

「見よ、わたしの選んだ僕。わたしの心に適った愛する者。この僕にわたしの霊を授ける。彼は異邦人に正義を知らせる」(マタイによる福音書12:18)。霊に満たされるとは、神の正義を知らせる者となるということです。「平和を実現する人々は、幸いである」(マタイによる福音書5:9)とのイエスの言葉に応える者となるということです。私たち一人ひとりの力は小さいかもしれませんが、それでも、その小さな力を集めて平和を実現するために声を上げ続けるしかないのです。

『改訂版 こどもさんびか』140番「みんなでへいわを」の歌詞には、いろいろな言葉で「平和」が歌われています。

ピョンファ (평화) ハングル、ミール (мир) ロシア語、シャーローム (שלום) ヘブライ語、ペ (paix) フランス語、シャンティ (शान्तिः) ネパール語・ヒンディー語／サンスクリット語、アマニ (amani) スワヒリ語 (タンザニア・ケニア)、カパヤパアン (kapayapaan) タガログ語 (フィリピン)、パス (paz) スペイン語、サラーム (سلام) アラビア語、ピース (peace) 英語、サーマ (සාමය) シンハラ語 (スリランカ)、サンティパープ (สันติภาพ) タイ語、エイレーネー (ειρήνη) ギリシャ語、パックス (pax) ラテン語、ホアピン (和平) 中国語、フリーデン (Frieden) ドイツ語、イトモ (イトモ) アイヌ語、ペルデマイアン (perdamaian) インドネシア語。

「他国の言葉で」「神の偉大な業を語」ることは難しいかもしれませんが、いろいろな言葉で「平和」を叫ぶことはできるはずです。

しかも、私たちは一人ではありません。共に歩む大切な仲間たちがいます。そればかりではありません。私を見守る神がおられます。私を導く救い主がおられます。そして、私たちを支える聖霊が、私の内で働いておられるのです(「御救いの喜びを再びわたしに味わわせ／自由の霊によって支えてください。」詩編51:14)。

「聖霊に満たされ」て力強く、今こそ平和への一歩を踏み出そうではありませんか。

